

新構造設計特記仕様 その2

・修正箇所は下線を引くこと
適用は ■ 印を記入する。

9. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS 5 2015 による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS 5に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9.1に示す様に設計基準強度が36N/mm²以下のコンクリートについてはJASS5の3節～11節を適用し、36N/mm²を超えるコンクリートについてはJASS5の17節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める調合管理強度以上とし、発注するレディーミクストコンクリートの呼び強度が表9.2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。軽量コンクリートについてはJASS 5の14節によること。

表9.1 コンクリート圧縮強度 (N/mm²) に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 F_c	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS 5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9.2 レディーミクストコンクリートのJIS規格品

調合管理強度 (N/mm ²)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
-----------------------------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

呼び強度 (JIS規格品)	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※
---------------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---

※印は規格外

(b) 品質と施工

- 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記が無い場合は標準とする。
 - 標準
 - 長期
 - 超長期
- コンクリートは JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合するJIS認証工場の製品とする。
- 設計基準強度が 36N/mm² を超えるコンクリートを扱うレディーミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているが、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。
- レディーミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。
- 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、施工計画、品質管理計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。
- フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、設計基準強度が 36 N/mm² 以下 33 N/mm² 以上の場合スランプ21cm以下、33 N/mm² 未満の場合スランプ18cm以下とし、設計基準強度が 36 N/mm² 超 45 N/mm² 未満の場合はスランプ 21 cm以下またはスランプフロー 50 cm以下、設計基準強度が 45 N/mm² 以上の場合はスランプ 23 cm以下またはスランプフロー 60 cm以下とし、特記による。
- コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として 0.3 kg/m³以下とする。
- コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として120分を限度とする。
- コンクリート打込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。
- 打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。
- 打込み後の湿潤養生の期間は、セメントの種類および設計基準強度に応じて3日以上とする。

(c) 調合および 構造体 コンクリート 強度

1) 高強度コンクリート

- 調合強度を定めるための基準とする材料は、特記による。特記のない場合は 28日とする。
- 構造体コンクリート強度を保証する材料は、特記による。特記のない場合は 91日とする。
- 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。

- ① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材料において調合管理強度以上とする。
- ② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材料において設計基準強度に 3 N/mm² 加えた値以上とする。

- 調合管理強度は、以下による。

$$f_m = F_c + m \cdot S_n \quad (N/mm^2)$$

$$f_m : \text{高強度コンクリートの調合管理強度 (N/mm}^2\text{)}$$

$$F_c : \text{コンクリートの設計基準強度 (N/mm}^2\text{)}$$

$$m \cdot S_n : \text{高強度コンクリートの構造体強度補正値で JASS 5 による。}$$

- 調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の式を満足するように定める。

$$f \geq f_m + 1.73 \sigma_H \quad (N/mm^2)$$

$$f \geq 0.85 f_m + 3 \sigma_H \quad (N/mm^2)$$

$$f : \text{高強度コンクリートの調合強度 (N/mm}^2\text{)}$$

$$\sigma_H : \text{高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm}^2\text{) で、レディーミクスト}$$

$$\text{コンクリート工場の実績による。実績がない場合は、0.1 (F_c + m \cdot S_n) \text{ とする。}$$

ii) 普通コンクリート

- 調合を定めるための基準とする材料は、原則として 28日とする。

- 構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3 構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材料 (1)	判定基準
標準養生 (2)	28 日	$X \geq F_m$
コ ア	91 日	$X \geq F_q$

ただし、X: 1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm²)

F_m : コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)

F_q : コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)

【注】(1) 早い材料において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。

(2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光および風が直接当たらない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

* 標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。

その場合の判定基準は材料28日までの平均気温が20℃以上の場合、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3 N/mm² を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

* コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。

その場合の判定基準は材料91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から3 N/mm² を減じた値が 品質基準強度以上であれば合格とする。

- 調合管理強度は、以下による。

$$F_m = F_q + m \cdot S_n \quad (N/mm^2)$$

$$F_m : \text{コンクリートの調合管理強度 (N/mm}^2\text{)}$$

$$F_q : \text{コンクリートの品質基準強度 (N/mm}^2\text{)}$$

$$m \cdot S_n : \text{標準養生した供試体の材料 m 日における圧縮強度と構造体コンクリートの n 日における圧縮強度の差による構造体強度補正値 (N/mm}^2\text{)}$$

- 調合強度は標準養生した供試体の材料 m 日における圧縮強度で表すものとし、下記の式を満足するように定める。調合強度を定める材料 m 日は、原則として 28 日とする。

$$F \geq F_m + 1.73 \sigma \quad (N/mm^2)$$

$$F \geq 0.85 F_m + 3 \sigma \quad (N/mm^2)$$

$$F : \text{コンクリートの調合強度 (N/mm}^2\text{)}$$

$$\sigma : \text{使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm}^2\text{) で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績のない場合は、2.5 N/mm}^2\text{、または、0.1 F}_m\text{ の大きい方の値とする。}$$

(d) 検査

- フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合 1 日 1 回以上とし、1 回の検査における測定試験は、同一材料から取り分けて 3 回行い、その平均値を試験値とする。
- スランプの許容差は普通コンクリートの場合、スランプが 8cm 以上 18cm 以下の場合 ±2.5cm、21cm の場合 ±1.5cm（呼び強度 27 以上で高性能 AE 減水剤を使用する場合は ±2cm）とする。高強度コンクリートの場合は、スランプが 18cm 以下の場合 ±2.5cm、21cm 以上の場合 ±2cm とし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが 50cm 以下の時は ±7.5cm、50cm を超える時は ±10cm とする。
- 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材料 28 日で行い、1 回の試験は、打込み区ごと、打込み日ごと、かつ 150mm またはその繰数ごとに 3 個の供試体を用いて行う。3 回の試験で 1 検査ロットを構成する。高強度コンクリートでは、打込み日かつ 300mm ごとに検査ロットを構成して行う。1 検査ロットにおける試験回数は 3 回とする。検査は適当な間隔をあげた任意の 3 台のトラックアジテータから採取した合計 9 個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。
- 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み区ごと、打込み日ごと、かつ 150mm またはその繰数ごとに 1 回行う。1 回の試験には適当な間隔をかけた 3 台の運搬車から 1 個ずつ採取した合計 3 個の供試体を用いる。高強度コンクリートでは打込み日、打込み区かつ 300mm ごとに行う。検査には適当な間隔をあげた任意の 3 台のトラックアジテータから採取した合計 9 個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。
- 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、JASS5 による。
- 構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c) 調合および構造体コンクリート強度による。
- コンクリートの試験は、「建築物の工事における試験および検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。

試験・検査機関名 未定 (都知事登録 号)

代行業者名 (登録番号 号)

代行業者とは、試験・検査に伴う業務を未定代行するものを言う。

(2) 鉄筋

(a) 施工

- 鉄筋は JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551（溶接金網および鉄筋格子）に適合するものを用いる。
- 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。
- 鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)～(3)」による。
- 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4 鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級	(2) (1) 以外の勾配 (注)			鉄筋の径	使用箇所
		A 級	B 級	SA 級		
■ 重ね継手	標準図による				■ D (19) 以下	床・壁・壁・基礎
□ 圧接継手	告示1463号第2項各号	□	□	□	□ D () 以上	
□ 溶接継手	告示1463号第3項各号	□	□	□	□ D () 以上	
□ 機械式継手	告示1463号第4項各号	□	□	□	□ D () 以上	

注) (1) 以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取付した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（鉄筋物の構造関係技術基準解説書 2015）』によって検討した部材の条件・仕様によること。

- 機械式継手および圧接継手および溶接継手は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。
- ガス圧接の施工は、強風時または降雨時には原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。
- 圧接技量資格者は、（公社）日本鉄筋継手協会によって認証された技量資格性証明書で工事監理者に提出し、承認を受ける。
- 機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取付した定着金物を用いる。

(b) 検査

継手部の検査方法

各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、（公社）日本鉄筋継手協会の仕様書を参照のこと。

表9.5 継手の検査

鉄筋継手工法	検査の種類	検査数量	試験方法
圧接継手	□ 外観検査	全数	目視又は計測
	□ 超音波探傷検査	抜取り1 検査ロット当たり () 箇所又は () %	JIS Z 3082: 2014 による
	□ 引張試験による検査	抜取り1 検査ロット当たり () 箇所又は () %	JIS Z 3120: 2014 による
溶接継手	□ 外観検査	全数	目視又は計測
	□ 超音波探傷検査	抜取り1 検査ロット当たり () 箇所又は () %	JRJS 0005: 2017 による
	□ 引張試験による検査	抜取り1 検査ロット当たり () 箇所又は () %	JIS Z 2241: 2011 による
鉄筋継手工法	□ 外観検査	全数	目視又は計測
	□ 超音波探傷検査	抜取り1 検査ロット当たり () 箇所又は () %	JRJS 0003: 2017 による
	□ 引張試験による検査	抜取り1 検査ロット当たり () 箇所又は () %	JIS Z 2241: 2014 による

注) 1 抜取り1 検査ロットは、同一作業班が同一日に作業した継手箇所 200箇所程度とする。

注) 2 ガス圧接部分の検査は超音波探傷検査によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は 5本以上とする。

- 鉄筋の継手の試験・検査は、「要綱」第4条の試験試験機関、又は第8条の検査機関で行うこと。試験・検査機関名 (都知事登録 号)

(3) かぶり厚さ

- 最小かぶり厚さは、表9.6に定する設計かぶり厚さを10mm減じた値とする。
- 設置かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9.6以上の値とする。

表9.6 設計かぶり厚さ (単位:mm)

構造体の計画供用期間の級	部材の種類	標準・長期		超長期	
		屋 内	屋 外 (2)	屋 内	屋 外 (2)
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材 (1)	30	40	(30)	(40)

直接土に接する柱・梁・壁・床および基礎の立上り部分、換気口の壁部分

基礎、換気口の基礎・底盤

注) (1) 計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の期間に応じて定める。

(2) 計画供用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性と有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを 10mm 減じることができる。

- 完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
- コンクリート構造体に透気目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施行令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じれば上記によらなくても良い。

(4) 型 枠

- 型枠および支保工の存置期間は、昭63年建告第1655号に基づき下表による。

表9.7 型枠存置日数 昭和46年建設省告示第110号（昭和63年改正建設省告示第1655号）

コンクリートの圧縮強度	コンクリートの材料 (日)	セキ 保				支 柱			
		基礎、梁、柱、壁	スラブ下、壁下	スラブ上	スラブ下	スラブ上	スラブ下	スラブ上	スラブ下
コンクリートの材料 (日)	15℃以上	2	3	4	5	6	7	8	9
	5℃～15℃	3	4	5	6	7	8	9	10
	5℃未満	4	5	6	7	8	9	10	11
設計基準強度の 50%		設計基準強度の 50%				設計基準強度の 50%			
設計基準強度の 100%		設計基準強度の 100%				設計基準強度の 100%			

※ JASS 5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準 10 N/mm²以上、長期及び超長期の場合は 10 N/mm²以上、また高強度コンクリートの場合は 10 N/mm² 以上。

注) 1 片持ち梁、梁、スパン 8.0m 以上の梁下は、工事監理者の承認による。

注) 2 大梁の支柱の撤去は行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。

注) 3 支柱の撤去は、必ず直上層のコンクリート打ち後とする。

注) 4 撤去後の支柱頂部には、厚い梁板、角材または、これに代わるものを置く。

注) 5 支柱の撤去は、小梁が終ってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って撤去をしてはならない。

注) 6 直上層に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の撤去を行わないこと。

注) 7 支柱の撤去は、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

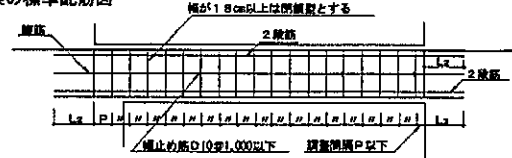


016
アウェイ
建設部、
建設部、
確認済

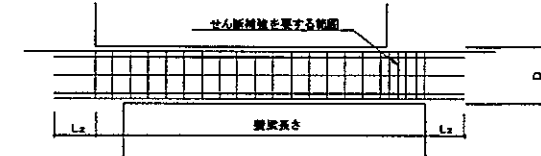
壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2) ※修正箇所は下線を引くこと L=本構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

7. 壁梁、小梁

(1) 壁梁の標準配筋図

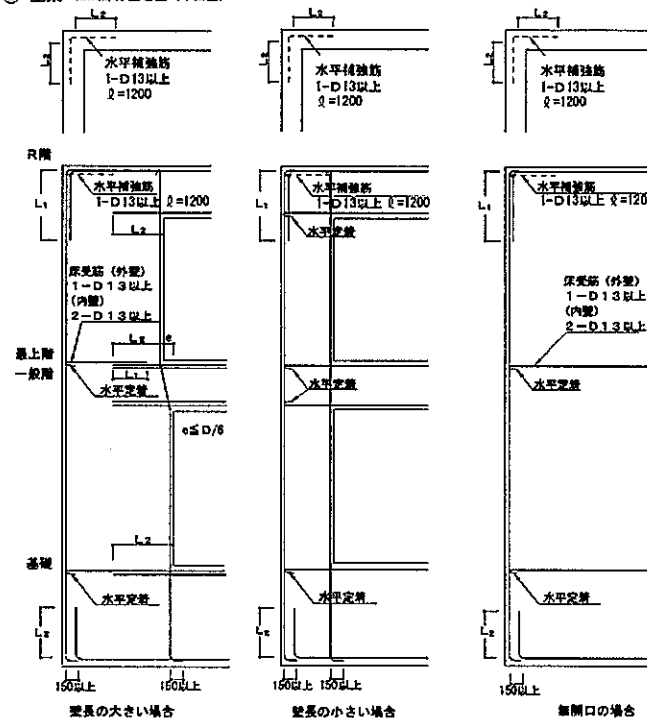


(2) 壁梁の範囲

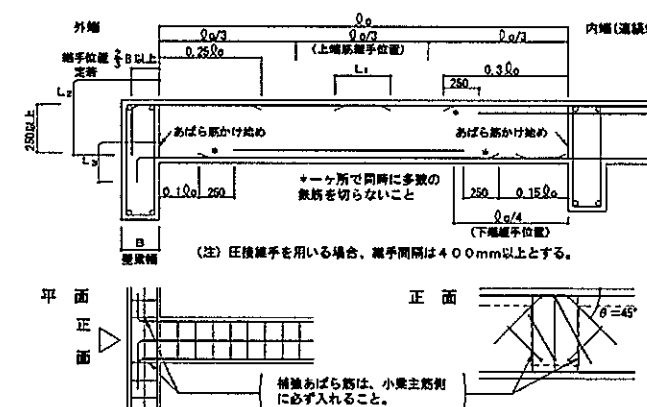


(3) 定着

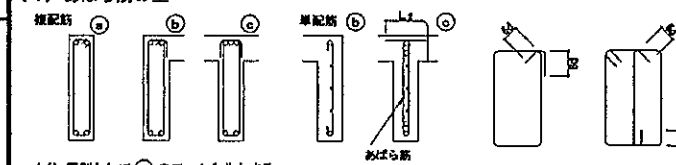
① 壁梁 出隅部分壁と壁 (平面図)



② 小梁の定着・継手位置およびトッパ筋長さ



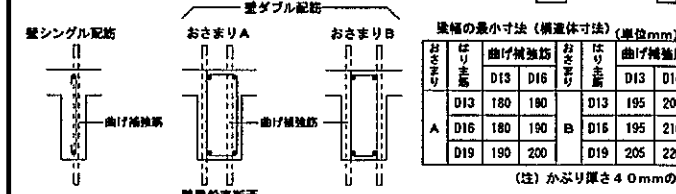
(4) あばら筋の型



- (イ) 原則として (a) のフック先出とする。
片側床版付 (L型) 梁で (b)。
両側床版付 (T型) 梁で (c) とすることができる。
(ロ) フックの位置は (a) については交互、
(b) についてはスラブ側とする。

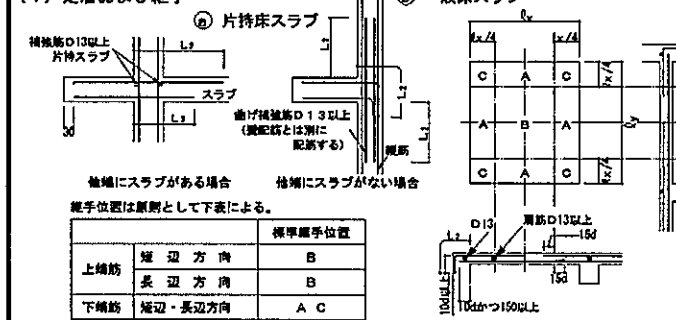
(5) 壁梁と壁のおさまり

壁梁の幅は耐力壁の厚さ以上とする。

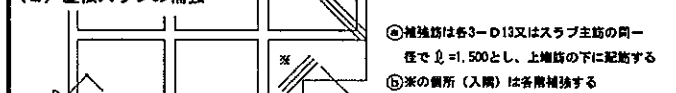


8. 床板

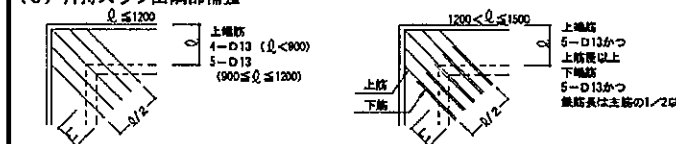
(1) 定着および継手



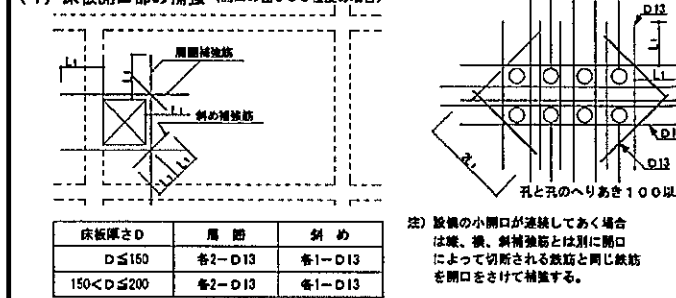
(2) 壁根スラブの補強



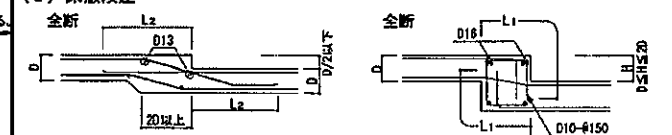
(3) 片持スラブ出隅部補強



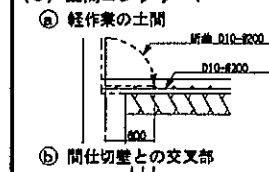
(4) 床板開口部の補強 (開口の径500mmの場合)



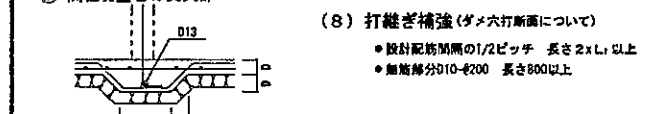
(5) 床版段差



(6) 土間コンクリート

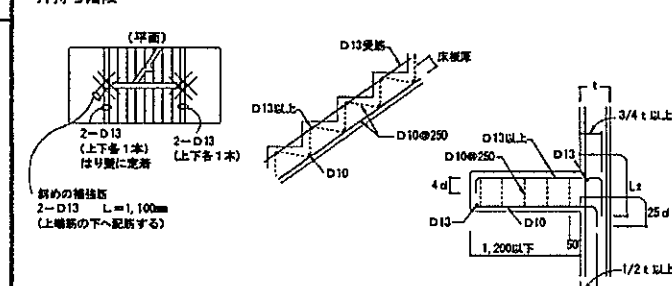


(7) 釜場



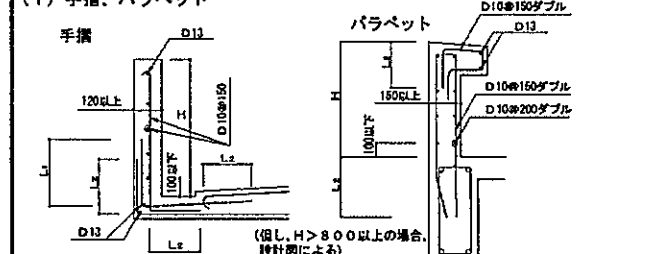
9. 階段

片持ち階段

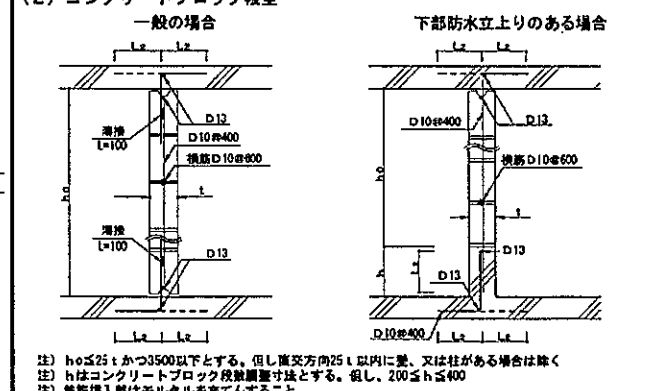


10. その他

(1) 手摺、パラベット



(2) コンクリートブロック壁

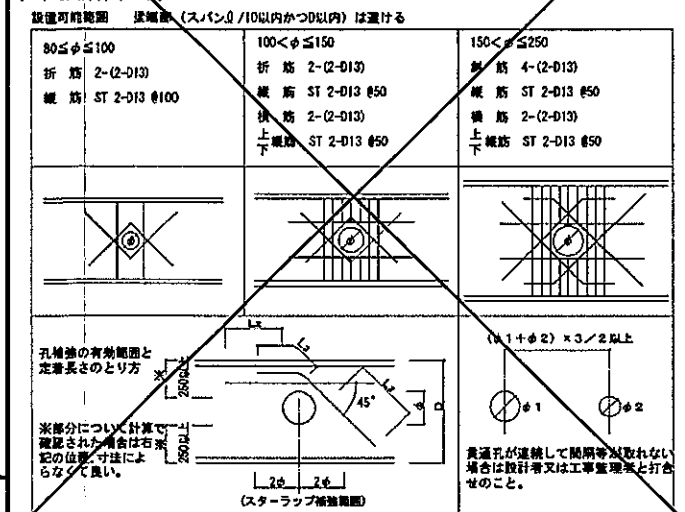


11. 梁貫通孔補強

(1) 既製品 (使用するときには、設計者又は工事監理者と打合せのこと)

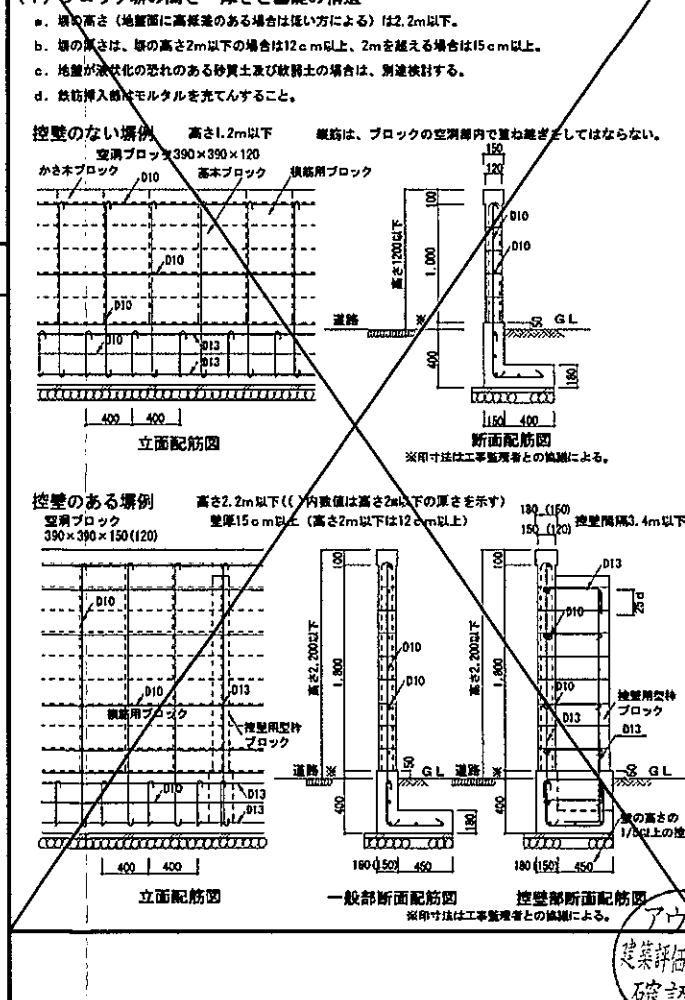
ロリング型 ロバイプ型 ロ金網型 ロプレート型

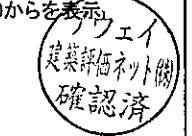
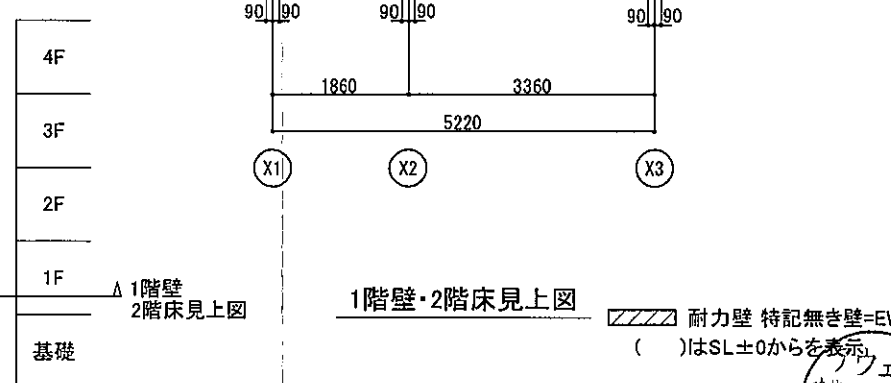
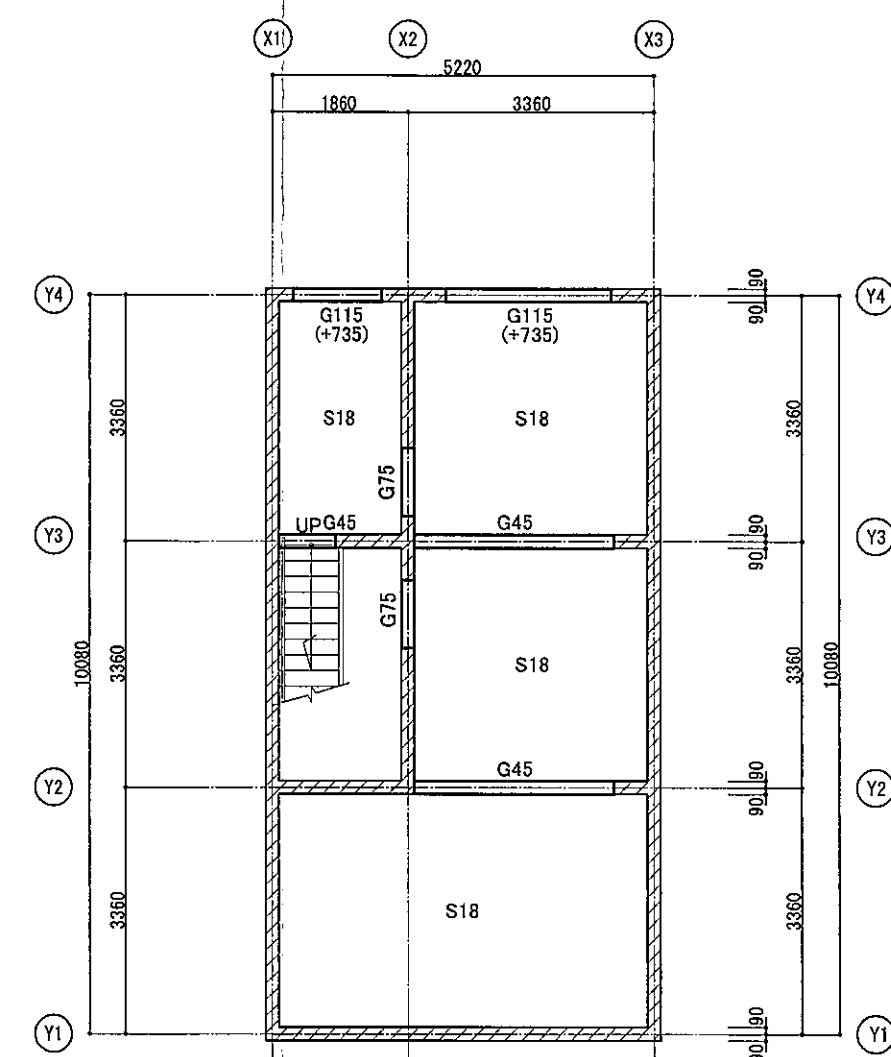
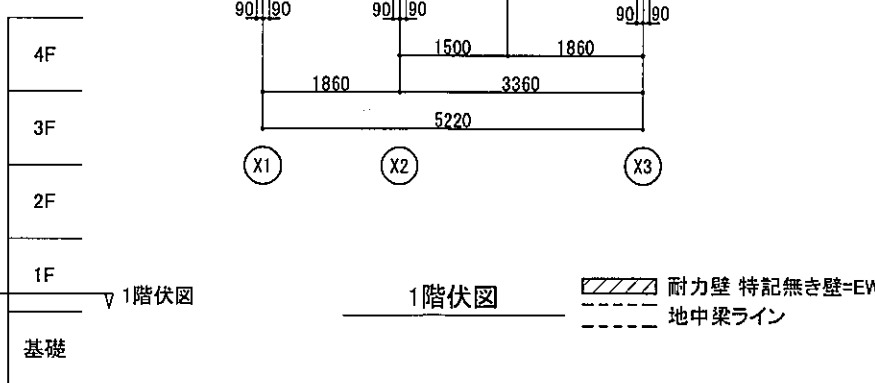
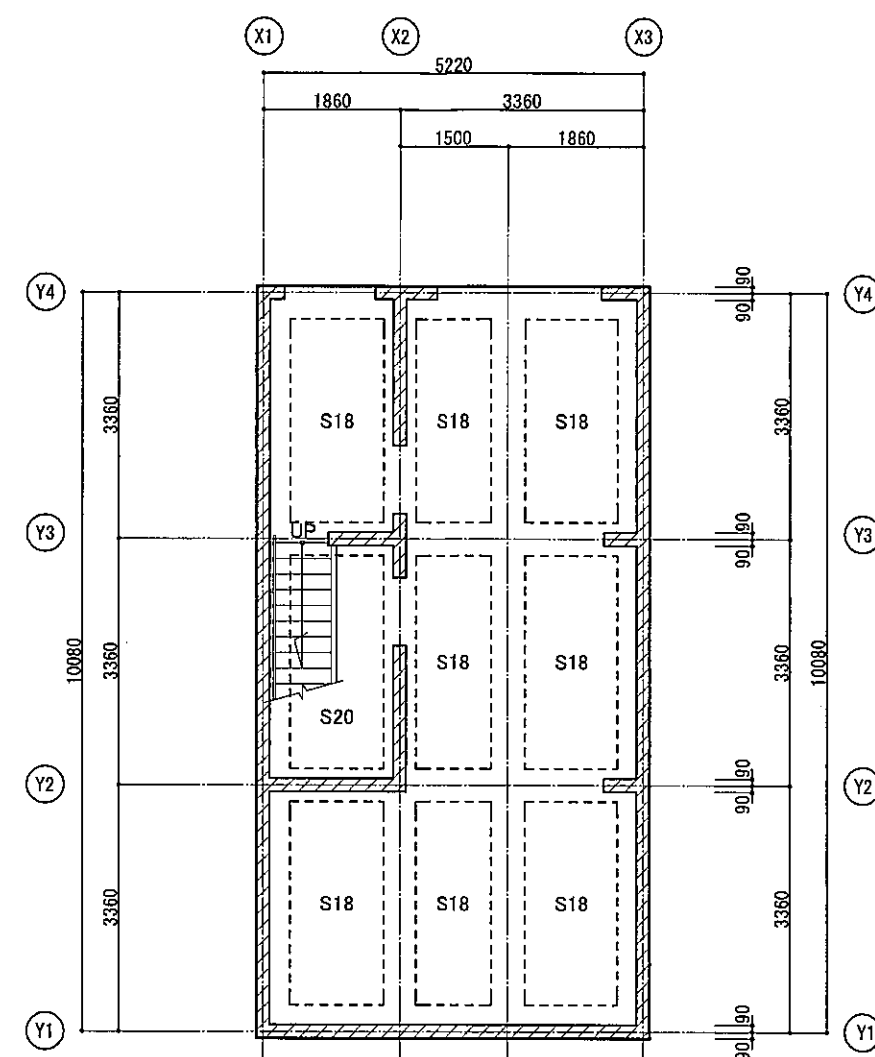
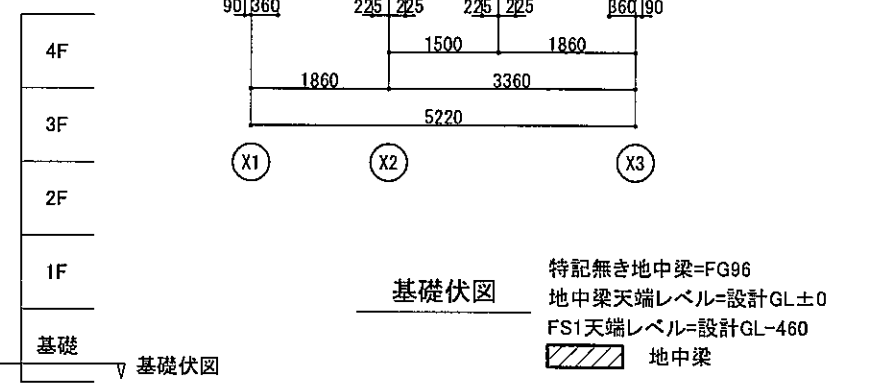
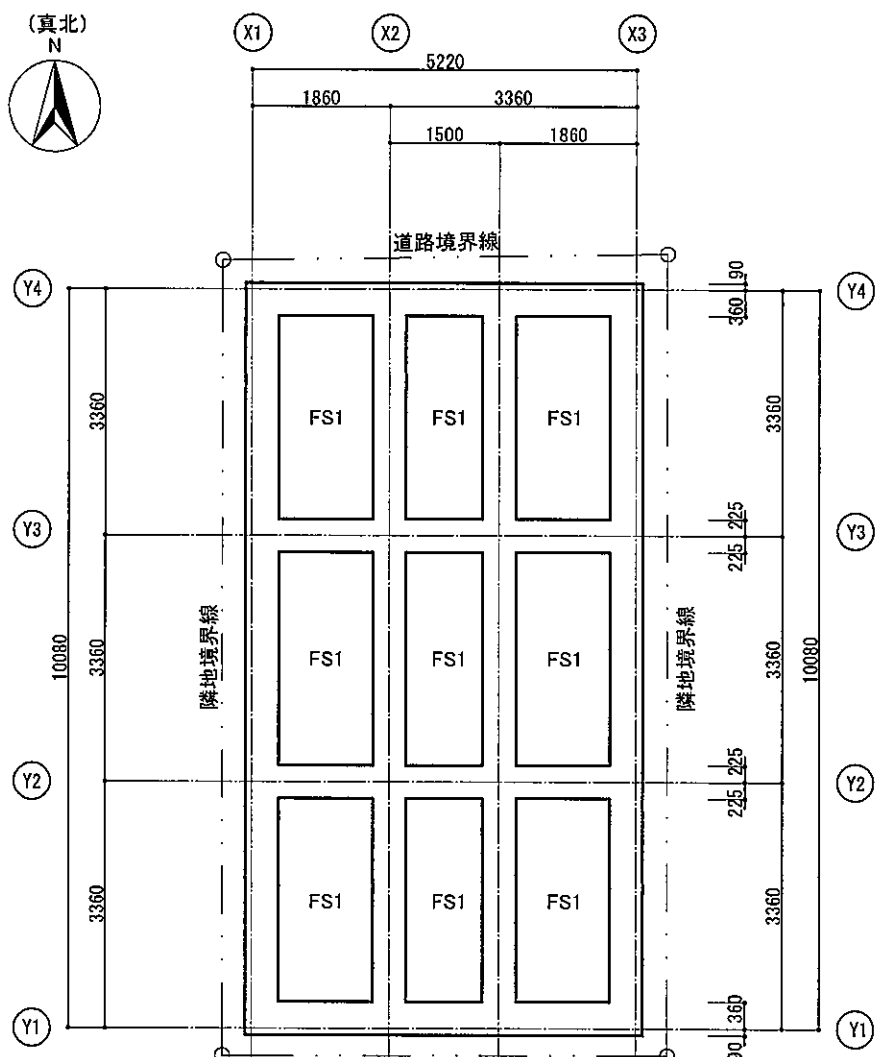
(2) 鉄筋標準配筋



12. コンクリートブロック塀

(1) ブロック塀の高さ・厚さと基礎の構造





一級建築士 大臣登録 第323855号 宮田 康祐

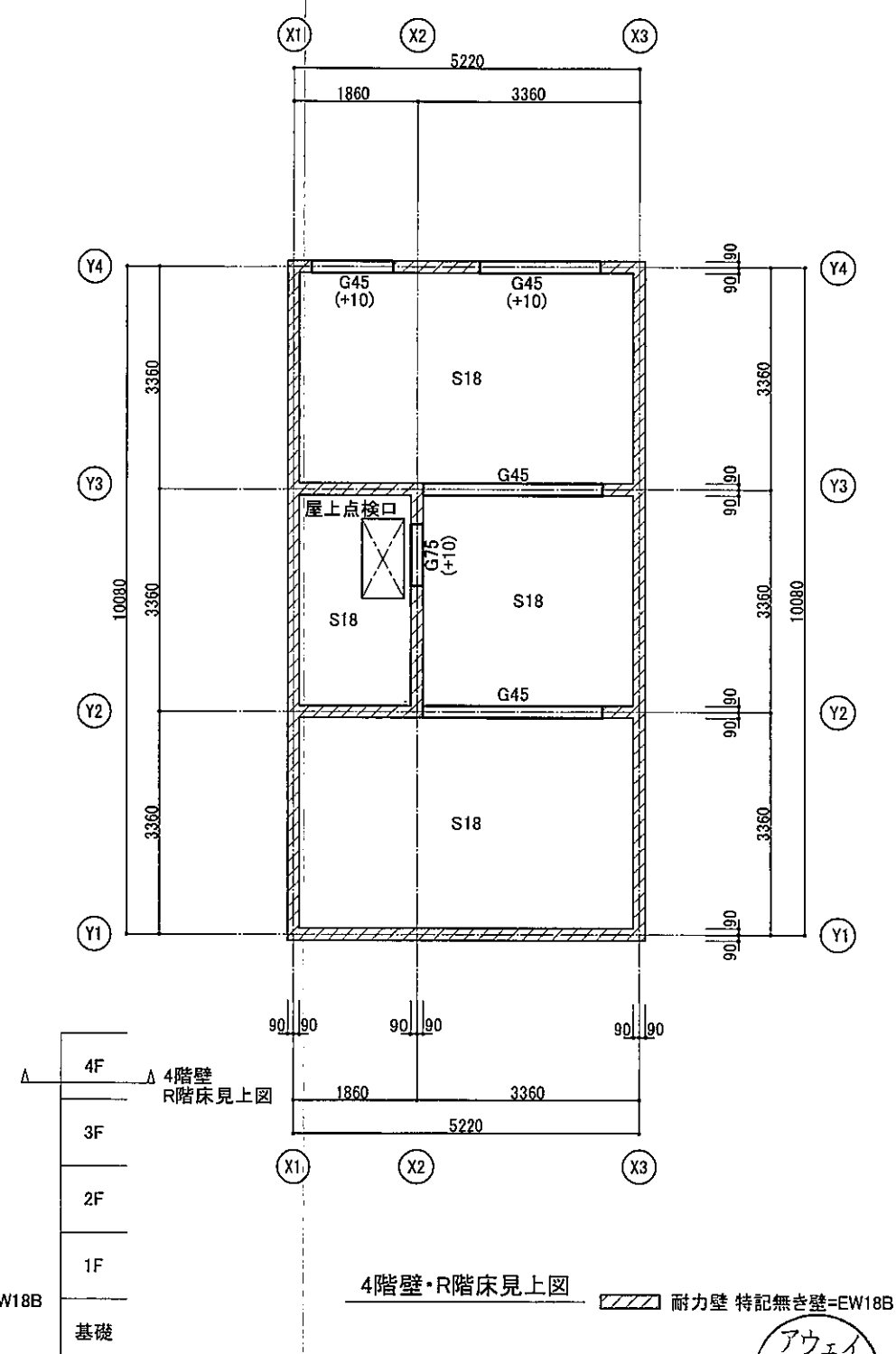
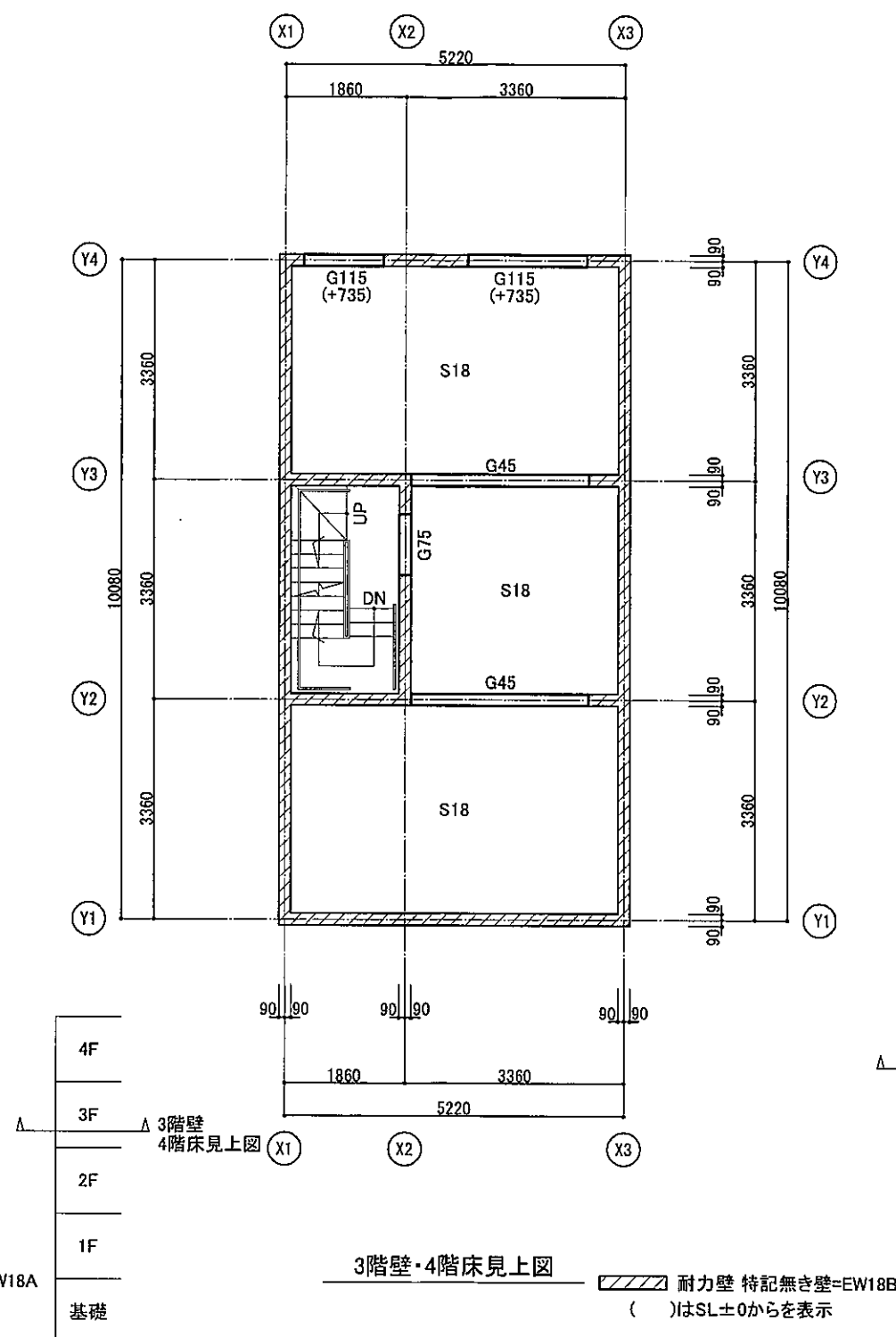
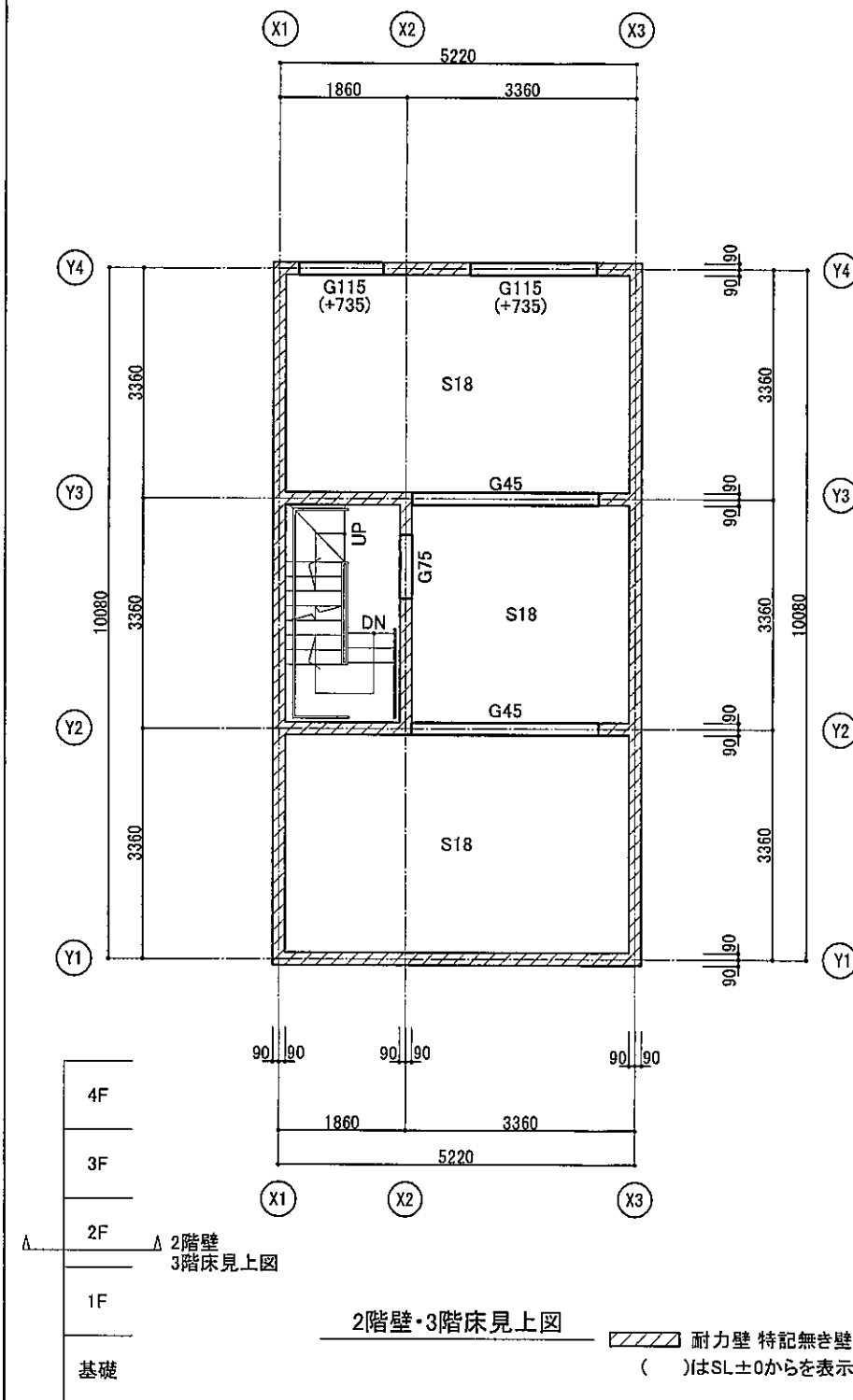
一級建築士事務所
大阿久建築設計事務所
一級建築士事務所登録(東京都) 63887号
〒134-0083
東京都江戸川区中葛西1-43-12 2F
TEL 03-5830-6293 FAX 03-5830-6294

(仮称)赤羽ビル 新築工事

株式会社久輝建築工房一級建築士事務所 東京知事登録 第62670号
構造設計一級建築士 第10077号 一級建築士 第334400号 久嶋泰宏

TITLE	基礎伏図・1階伏図・1階見上図
SCALE	1/100
DATE	2022/05/27

S-05



一級建築士 大臣登録 第323855号 宮田 康祐

一級建築士事務所
大阿久建築設計事務所
一級建築士事務所登録(東京都) 63887号

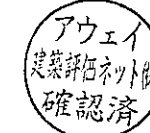
〒134-0083
東京都江戸川区中葛西1-43-12 2F
TEL 03-5830-6293 FAX 03-5830-6294

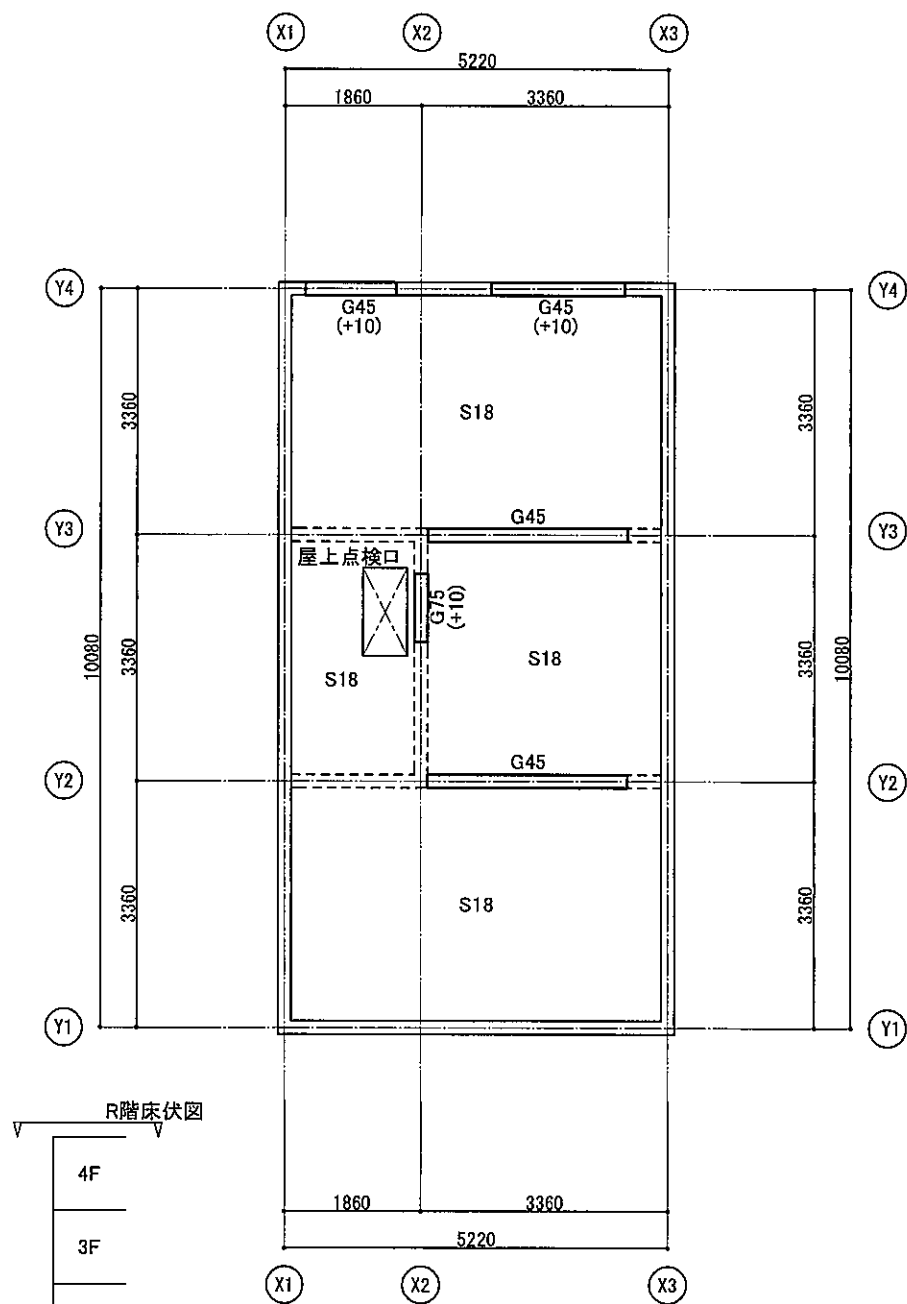
(仮称)赤羽ビル 新築工事

株式会社久輝建築工房一級建築士事務所 東京知事登録 第62670号
構造設計一級建築士 第10077号 一級建築士 第334400号 久嶋泰宏

TITLE 2階見上図・3階見上図・4階見上図
SCALE 1/100 DATE 2022/05/27

S-06





- R階床伏図
- 4F
 - 3F
 - 2F
 - 1F
 - 基礎

R階床伏図 4階壁ライン



株式会社久輝建築工房一級建築士事務所 東京知事登録 第62670号
構造設計一級建築士 第10077号 一級建築士 第334400号 久嶋泰宏

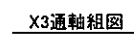
一級建築士 大臣登録 第323855号 宮田 康祐

一級建築士事務所
大阿久建築設計事務所
一級建築士事務所登録(東京都) 63887号
〒134-0083 東京都江戸川区中葛西1-43-12 2F
TEL 03-5830-6293 FAX 03-5830-6294

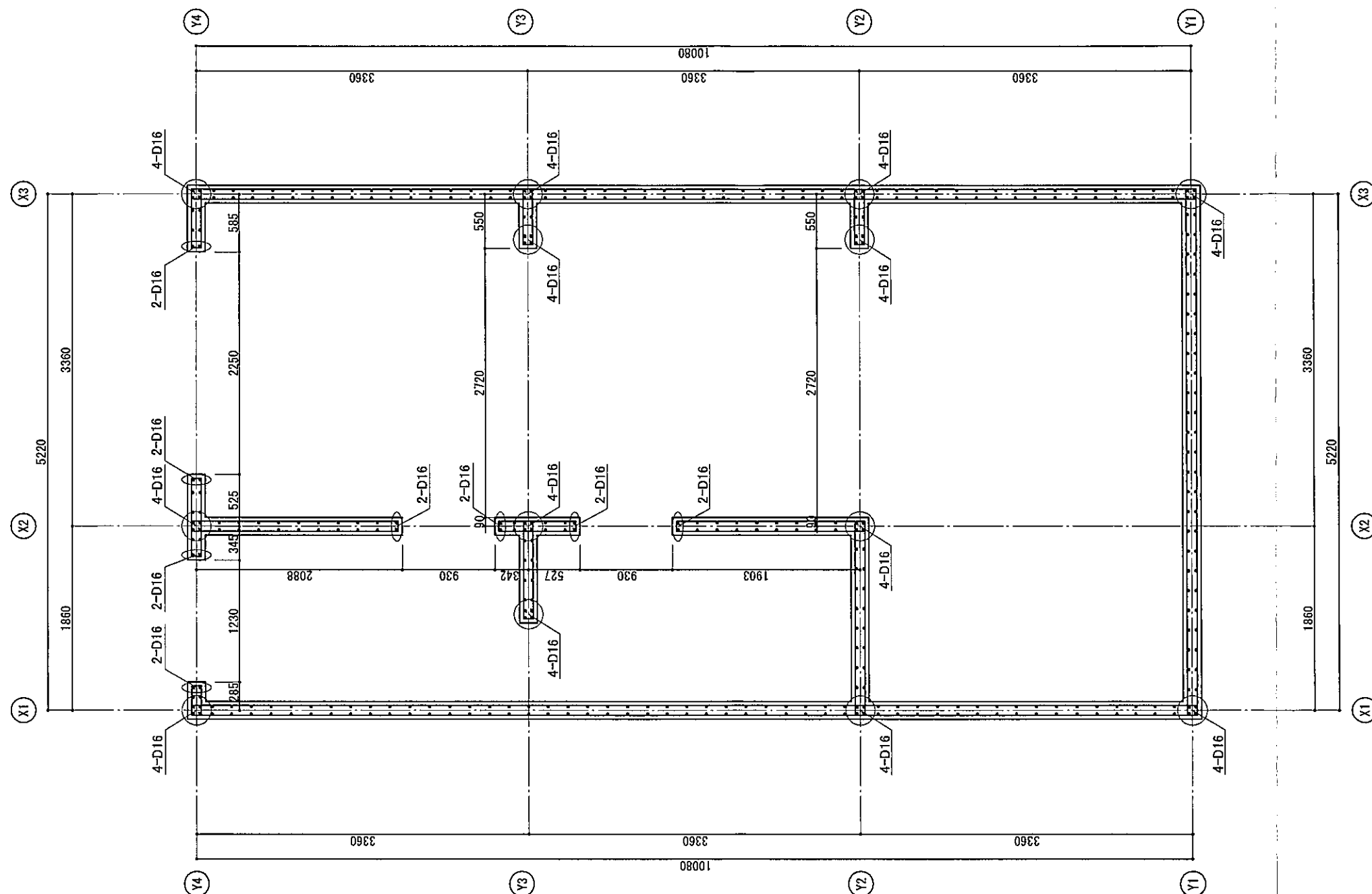
(仮称)赤羽ビル 新築工事

TITLE	R階床伏図		
SCALE	1/100	DATE	2022/05/27

S-07



S-08



1階壁配筋詳細図
※耐力壁 特記無き壁=EW18A



一級建築士 大臣登録 第323855号 宮田 康祐

一級建築士事務所
大阿久建築設計事務所
一級建築士事務所登録(東京都) 63887号

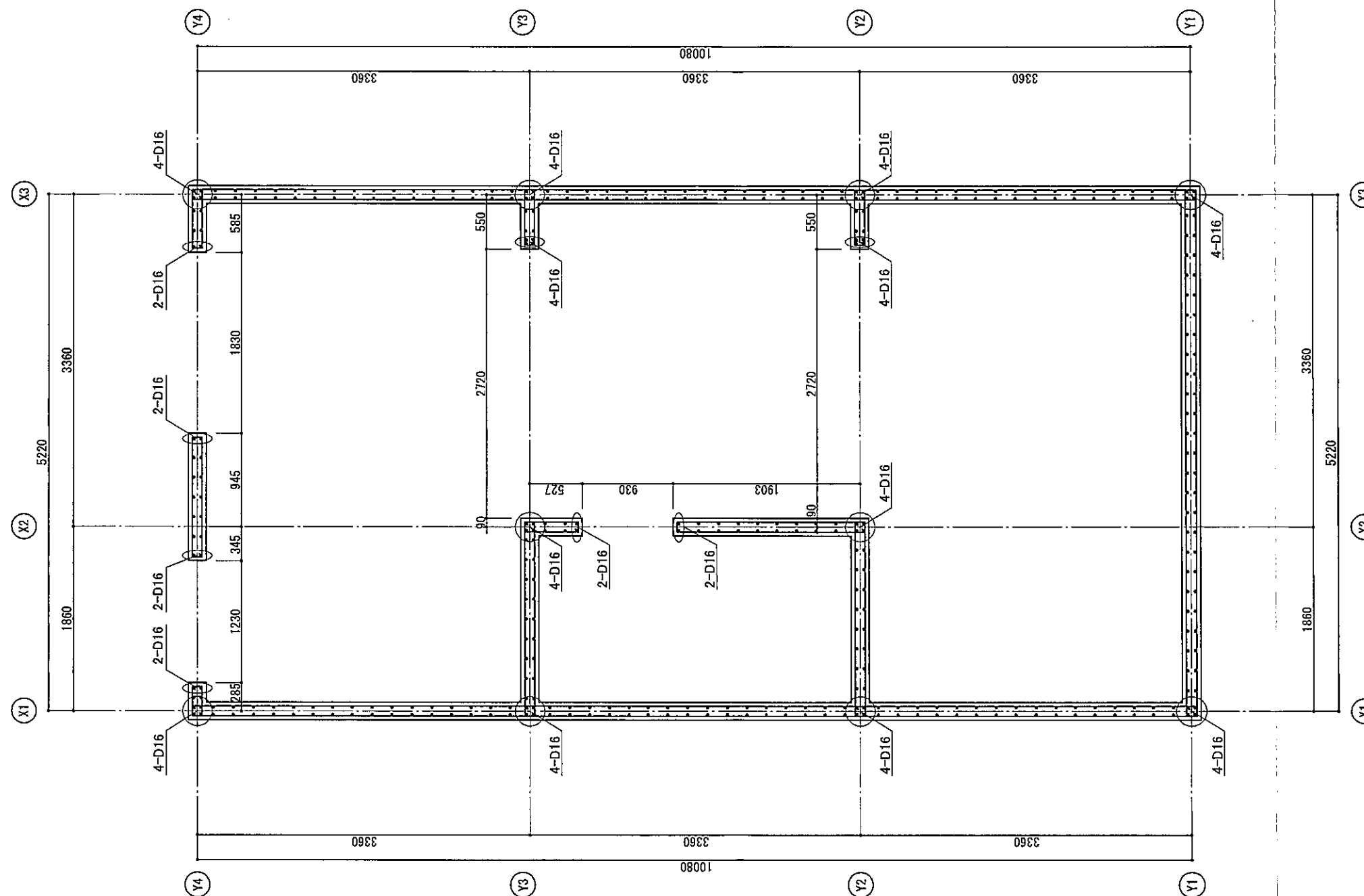
〒134-0083
東京都江戸川区中葛西1-43-12 2F
TEL 03-5830-6293 FAX 03-5830-6294

(仮称)赤羽ビル 新築工事

株式会社久輝建築工房一級建築士事務所 東京知事登録 第62670号
構造設計一級建築士 第10077号 一級建築士 第334400号 久嶋泰宏

TITLE 1階壁配筋詳細図		
SCALE 1/50	DATE 2022/05/27	

S-09



2階壁配筋詳細図

※耐力壁 特記無き壁=EW18A



一級建築士 大臣登録 第323855号 宮田 康祐

一級建築士事務所
大阿久建築設計事務所
一級建築士事務所登録(東京都) 63887号

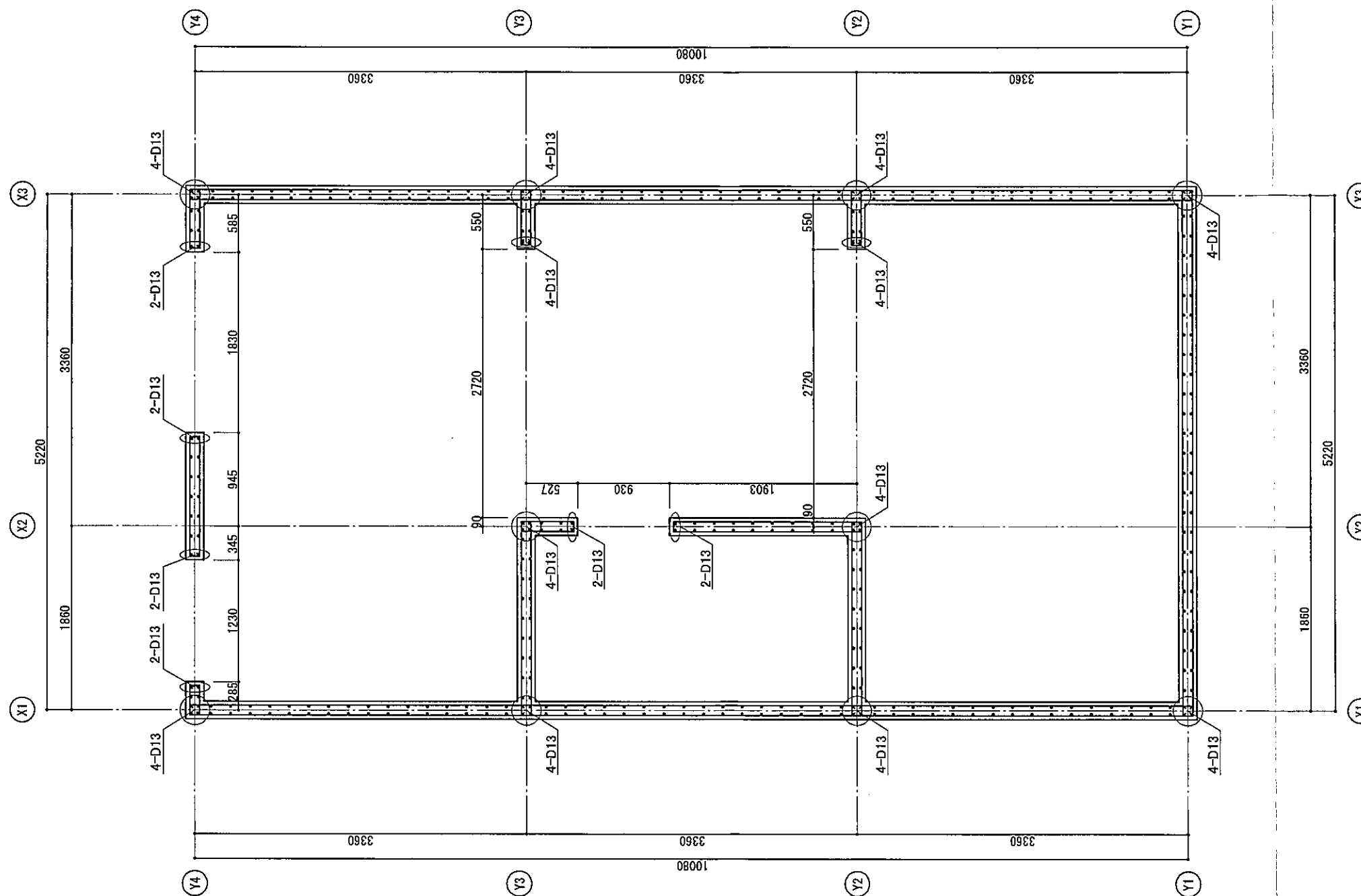
〒134-0083
東京都江戸川区中葛西1-43-12 2F
TEL 03-5830-6293 FAX 03-5830-6294

(仮称)赤羽ビル 新築工事

株式会社久輝建築工房一級建築士事務所 東京知事登録 第62670号
構造設計一級建築士 第10077号 一級建築士 第334400号 久嶋泰宏

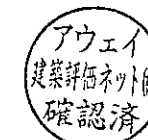
TITLE	2階壁配筋詳細図	
SCALE	1/50	DATE 2022/05/27

S-10



3～4階壁配筋詳細図

※耐力壁 特記無き壁=EW18B



一級建築士 大臣登録 第323855号 宮田 康祐

一級建築士事務所
大阿久建築設計事務所
一級建築士事務所登録(東京都) 63887号

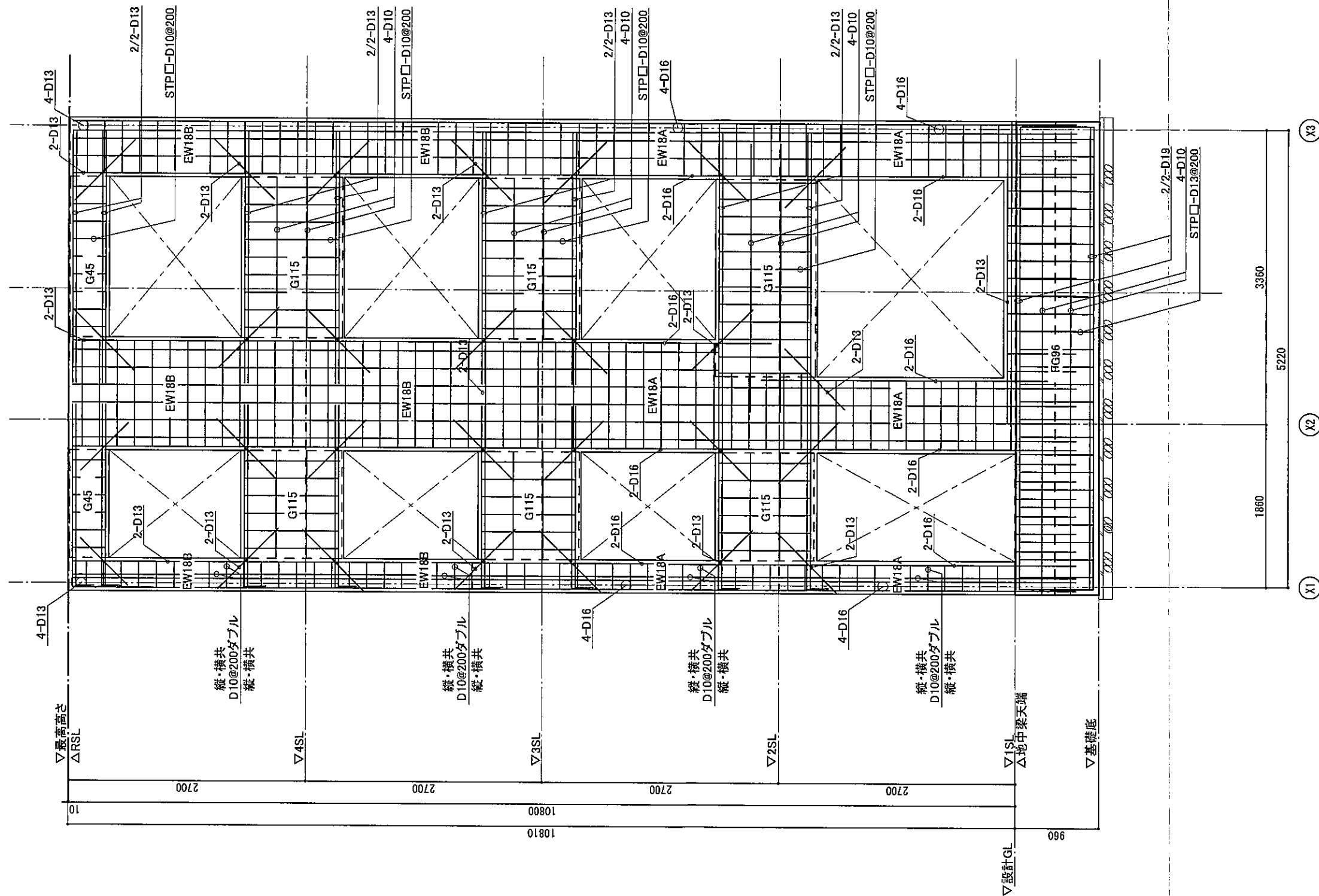
〒134-0083
東京都江戸川区中葛西1-43-12 2F
TEL 03-5830-6293 FAX 03-5830-6294

(仮称)赤羽ビル 新築工事

株式会社久輝建築工房一級建築士事務所 東京知事登録 第62670号
構造設計一級建築士 第10077号 一級建築士 第334400号 久嶋泰宏

TITLE 3～4階壁配筋詳細図
SCALE 1/50 DATE 2022/05/27

S-11



Y4架構詳細図



一級建築士 大臣登録 第323855号 宮田 康祐

一級建築士事務所
大阿久建築設計事務所
一級建築士事務所登録(東京都) 63887号

〒134-0083
東京都江戸川区中葛西1-43-12 2F
TEL 03-5830-6293 FAX 03-5830-6294

(仮称)赤羽ビル 新築工事

株式会社久輝建築工房一級建築士事務所 東京知事登録 第62670号
構造設計一級建築士 第10077号 一級建築士 第334400号 久嶋泰宏

TITLE Y4架構詳細図
SCALE 1/50 DATE 2022/05/27

S-12

壁梁リスト

階	符号	G115	G75	G45
	位置	全断面	全断面	全断面
全階 共通	断面			
	B×D	180×1150	180×750	180×450
	上端筋	2/2-D13	2-D13	2/2-D13
	下端筋	2/2-D13	2-D13	2/2-D13
	STP	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
	腹筋	4-D10	2-D10	-

壁リスト

符号	EW18A	EW18B
壁厚	180	180
断面		
縦筋	D10@200 (ダブル)	D10@200 (ダブル)
横筋	D10@200 (ダブル)	D10@200 (ダブル)
開口 補強筋	縦	2-D16
	横	2-D13
	斜め	2-D13
幅止筋	D10@1000	D10@1000

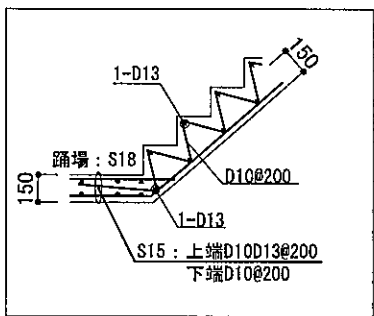
スラブリスト

符号	厚さ	位置	端 部		中 央	
			短辺	長辺	短辺	長辺
S18	180	上端	D10D13@200	D10D13@200	D10D13@200	D10D13@200
		下端	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200
FS1	500	上端	D16@200	D16@200	D16@200	D16@200
		下端	D16@200	D16@200	D16@200	D16@200

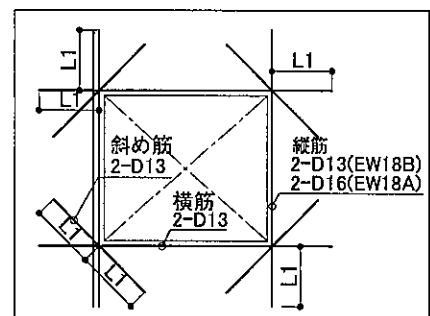
基礎梁リスト

符号	F696
位置	全断面
断面	
B×D	420×960
上端筋	2/2-D19
下端筋	2/2-D19
STP	□-D13@200
腹筋	4-D10

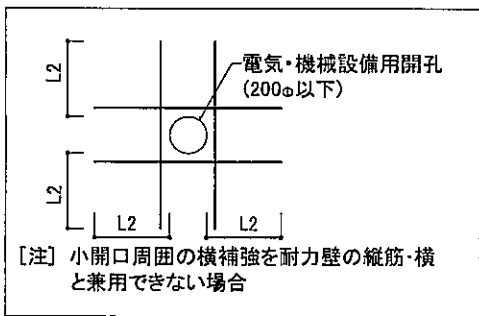
階段配筋要領



開口補強配筋要領図



耐力壁の小開口周囲の補強要領



株式会社久輝建築工房一級建築士事務所 東京知事登録 第62670号
構造設計一級建築士 第10077号 一級建築士 第334400号 久嶋泰宏

一級建築士 大臣登録 第323855号 宮田 康祐

一級建築士事務所
大阿久建築設計事務所
一級建築士事務所登録(東京都) 63887号

〒134-0083
東京都江戸川区中葛西1-43-12 2F
TEL 03-5830-6293 FAX 03-5830-6294

(仮称)赤羽ビル 新築工事

TITLE	配筋リスト
SCALE	1/40
DATE	2022/05/27

S-13